

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 10月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1071000242
法人名	有限会社ウェルフェア
事業所名	グループホームひまわり2
所在地 (電話番号)	群馬県 富岡市 宇田 77番地2 (電 話) 0274-62-7321
評価機関名	はあとらんど
所在地	群馬県 前橋市 大友町2-29-5コミュニケーション100 1-B
訪問調査日	平成20年8月6日

【情報提供票より】(20年 10月 2日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	5.3 人	常勤 4人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5. 3人	

(2)建物概要

建物形態	併設/ 単 独	新築/ 改 築
建物構造	木 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食 200 円	昼食 200 円	
	夕食 300 円	おやつ 0 円	
	または1日当たり	円	

(4)利用者の概要(10月 2日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83 歳	最低 65 歳	最高 97 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院 公立七日市病院 西毛病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者・職員は、連携を密にしながら、運営理念を大切にケアサービスの質の向上に向け前向きに取り組んでいる。利用者一人ひとりのペースを大切に支援している。医療機関との連携を図りながら、利用者の健康管理には細やかに気を配っている。緑の多い静かな環境に立地しており、広い畑では利用者と職員が、しっかりと手をかけながら野菜や花を育てている。畑の作物は食事のメニューに取り入れられ季節感を味わう事ができる。利用者と職員が共にゆったりと生活しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 鍵をかけない工夫では、利用者の安全を確保しながら、日中は玄関に鍵をかけていない。食事を楽しむことのできる支援では、職員も利用者と一緒に食べながら、さりげなくサポートをしている。相談・苦情受付の明示では、玄関や事務室等に掲示している。市町村との関わりでは、状況報告や相談等で市の担当者と連携を図っている。課題は全て改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者・管理者・職員は評価の意義を理解しており、今回の自己評価については、ミーティングや会議等で話し合い、全員の意見が取り入れられている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的に開催しており、ホームから利用者の様子や活動状況等の報告を行い、メンバーで意見交換や討議を行っている。会議の中で、防火訓練に地域の人達にも参加してもらってはどうかという意見が出た。会議での要望を受け、消火・非難誘導訓練には3名の方に参加してもらい一緒に訓練を行った。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等の面会時には、何でも話してもらえるよう、雰囲気づくりに留意している。、管理者が苦情・相談窓口になっており、苦情等も話してくれるよう伝えている。意見や要望、苦情等には速やかに対応し、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の人達に、散歩やゴミ出し時に挨拶や話をしたり、畑の野菜の植え付けを手伝ってもらっている。地域の行事や祭り、敬老会に参加している。中学校の体験学習を受け入れている。地元の人々にホームを見学してもらい、管理者が説明をした。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	5年前に作られたホーム独自の理念の基に介護が行われているが、地域密着型サービスとしての理念を作り上げていない。	○	これまでの理念を見直し「地域の中で利用者がどのように生活をし、関係を持って生きるのか」を意識した理念を、全職員で話し合い、地域密着型サービスとしてのホーム独自の理念を作り上げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日々の生活の中で理念を職員に話している。職員会議やミーティングの時にも確認し合っており、理念は共有されている。運営推進会議の中でも参加者に理解をしてもらえるよう話している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人達に野菜の植え付けを手伝ってもらったり、散歩やゴミ出しの時には挨拶や話をしている。地域の行事や祭り、敬老会等にも参加している。中学校の体験学習の受け入れを行っている。地域との関係を大切にしており、地元の人々に見学をしてもらいホームの説明をした。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は評価の意義を理解しており、今回の自己評価については全員の意見が取り入れられている。前回の外部評価についても話し合いを持ち、具体的な改善に取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催されている。ホームからの報告、情報の交換等を行い、出席者からの意見や要望を受け話し合いを行っている。そこでの意見をサービス向上に活かし、改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの状況報告等で市の方へ出向いたり、市の担当者からアドバイスをもらったり、市からも電話での問い合わせ等があり連携が図られている。市主催の地域ケア会議には毎月参加しており、地域包括支援センターの職員とも交流している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の面会時には、利用者の健康状態や日常生活の様子等を報告している。受診する場合には、電話で家族等に連絡を取っている。家族等が同行できなかった時には、受診後に報告を行っている。年4回『ひまわり便り』を発行している。毎月、状況報告や金銭管理の報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の面会時には、何でも話してもらえるような雰囲気づくりに留意している。管理者が苦情相談窓口になっており、苦情等も話してくれるよう伝えている。意見や苦情等には速やかに対応し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1年間職員の異動はしていない。職員が代わる場合には、利用者、家族等に紹介し、運営推進会議で報告している。新しい職員には、まず日勤で2週間位、先輩職員が基本的な対応やケア方法等を指導しながら共に支援にあたり、夜勤は管理者が指導し、引継ぎがスムーズにできるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者、職員の研修に対して前向きであり、職員全員が交代で研修に参加している。認知症介護実務者研修、介護実践者研修、救急救命、感染予防、地域密着型サービス連絡協議会の全国フォーラム、交換研修等へ参加している。ミーティングで研修の報告を行い、資料は回覧、掲示している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、連絡協議会主催の大会や交換研修に参加している。また、交流のあった同業者と情報交換等も行いながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族等にホームを見学してもらったり、職員が事前に家庭を訪問する事もある。入居後も、利用者との会話の機会を多く持ったり、お茶等に誘い気分を和らげたり、家族等の声を電話で聞いてもらう等、一人ひとりに合わせた対応をしながら、徐々に環境に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の先輩である利用者から、畑仕事、洗濯物の畳み方、饅頭の作り方、折り紙、昔の数え歌等教えてもらう事も多く、ねぎらいの言葉をもらう事もある。ゆったりとした一日を共に過ごせるよう、支え合える関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の会話、表情、動作等を見たり、家族等から話を聞きながら、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。その情報を職員間で共有し、日々のケアに結び付けている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中で、本人、家族等から思いや意向を聞き、介護計画に反映させるようにしている。会議の中で職員間で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時、状態の変化に応じて見直しを行っている。定期的の場合の見直しは6ヶ月毎に行っている。評価は3ヶ月毎に行っており、モニタリングも行っている。職員間で話し合い、本人、家族等に確認しながら、その都度現状に即した新たな計画を作成している。	○	新たな要望や状態に変化が見られない場合でも、本人、家族等の意向や状況を確認しながら、月に1度はモニタリングを行い、介護計画の遂行状況、効果等を評価し、少なくとも3ヶ月に1度は見直しを行ってほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望や都合に応じて、買い物、理・美容、墓参り、薬の購入、受診・通院付き添い、入院時の洗濯、博物館見学等、一人ひとりの必要な支援に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望するかかりつけ医となっている。受診・通院は本人、家族等の希望に応じて対応しており、家族が付き添えない場合には、職員が代行し結果を速やかに報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の「できること・できないこと」を明確にし、本人、家族等とよく話し合い、かかりつけ医と連携しながら意向に沿って支援している。事業所としての重度化や終末期に向けた方針を定め文章化はされていない。	○	事業所として対応しうる最大の支援方法を踏まえて、重度化や終末期に向けた対応の方針を定め、それを文章化し、できるだけ早期から本人、家族、かかりつけ医等ケア関係者と話し合いを繰り返し、その時々家族等の意向を確認しながら、関係者全体で対応方針の統一を図っていかれるとよいのではないかな。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重し、声かけ等でも尊厳を傷つけないよう、会議、ミーティングの時等に確認しあっている。居室は外からは見えない工夫がされている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、お茶の時間が決められている以外は、自由に過ごしてもらえよう、一人ひとりのペースを大切に希望に沿った支援をしている。食事も3箇所テーブルがあり、好きな場所で取ることが出来る。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを職員と一緒にに行っている利用者もいる。外の畑で採れたものが食卓に並び季節感を味わえる。利用者と職員が共に、3箇所のテーブルで楽しそうに食事をしている。体調によっては居室での食事支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴記録表の記載によると、ほとんど決められた曜日に週2回入浴支援を行っている。足浴、シャワー浴、りんご風呂、ゆず湯等楽しむこともある。	○	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの習慣や好みをよく聞いて、相談しながら個別に合った入浴の支援をしていってほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花、花や野菜づくり、花摘み、食事の準備、皿洗い、洗濯干し、洗濯たたみ、草むしり、カラオケ、季節の花見、紅葉狩り、ボランティア(ギター、ハーモニカ、大正琴、踊り)の慰問、ドライブ等役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い庭や畑で過ごしたり、近所の公園への散歩、買い物、ゴミ出しに定期的に出かけている。花見、紅葉狩り、果物狩り、初詣、ドライブ等に出かけており、希望があれば、博物館やコンサート等にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りにより、利用者の安全を確保しながら、日中は玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年1回消防署の協力を得て、避難誘導訓練と消火訓練を行っている。地域の人達に災害時の協力を依頼しており、訓練には区長、民生委員、近所の人達も参加した。職員3名が防火管理者の講習を受けている。災害対策マニュアルを作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた家庭料理を基本に、季節感のある食事を提供している。水分は一日1,600ccを目標にしており、摂取できない場合にはゼリーやジュース等に対応している。職員は日誌や申し送り簿で情報を共有し摂取状況を把握しながら支援している。月1回体重測定を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花が植えられ、室内は天井が高く開放的である。季節の花を飾り、明るい清潔なリビングには、テレビ、テーブルが2箇所、大きなソファが2箇所設置してある。広いキッチンには食事の手伝いがしやすいテーブルを設置している。広い敷地の中にあるホームの窓から、畑や里山の景色を眺められ、四季が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥、衣装ケース、テーブル、テレビ、鏡台、花鉢、電気カーペット、ポット、生け花等、馴染みのあるものや好みのものが持ち込まれており、一人ひとり個性的な居室になっている。本人が安心して過ごせる場所となっているように見受けられた。		